

第1章 研究概要

1 研究主題

(1) 研究主題

「実践的な指導力の向上を図る教員研修の在り方」

(2) 主題設定の理由

昨年度までの研修が一区切りつき、次年度の方向性を検討していったときに、「学習指導の実践検証は各学校でも行っていることなので、後志研修センターとしては教員研修の在り方、工夫などを行った方がよいのではないか。」というような意見が出されました。そこで今年度から新たに「校内研修に関する調査研修部会」を組織し調査研究を進めていくことになりました。

後志の抱える課題

後志では、近年生徒数の減少に伴い大規模校が減少し、学年1～2クラスの小規模校が増加しています。また、各学校の40歳以上の一般教員が減少しており、30歳そこそこで、ミドルリーダーとしての役割・力量を求められる現状となっています。そのため、同じ教科の先輩教員が自校には存在しなかったり、20歳代後半から30歳前半で校内研修を担当せざるを得ない状況で、各学校における教員の力量形成が十分になされにくくなってきています。

学校の課題

このような状況から各学校の校内研修では、「校内研修が日常実践につながる」、「具体的で効果のある校内研修の改善策が全体のものにならない」などの課題が挙げられています。

教員の課題

さらには、個々の教員は、「校外研修に行く時間がなかなかとれない」、「人数が少なく、多様な考えが出にくい」、「研修の進め方について相談できない」などの課題を抱えて日々の実践を行っているのが現状です。

そこで、校内研修に関する調査研究部会では、教員の実践力向上のために、「各学校の校内研修の充実を図る」、「校内研修担当者の育成を図る」事を目的とし、本研究主題を設定しました。

2 研究の視点

視点1

授業研究を核とした校内研修の在り方

視点2

マネジメントサイクルを機能させた校内研修体制の確立

3 研究計画

(1) 年次計画

第1年次
研究計画

【第1年次】平成22年度(2010年度)

「研究主題」「主題設定の理由」「研究の視点」の決定
校内研修支援に関わるアンケート調査の実施
校内研修の現状や問題点の把握
中間報告書の作成

第2年次
研究計画

【第2年次】平成23年度(2011年度)

校内研修支援の充実
校内研修の課題の絞り込み
課題の検証
校内研修の進め方 研究視点1
ワークショップを取り入れた校内研修 など

研修の評価 研究視点 2
 評価を位置付けた校内研修
 評価の場面
 発信 困り感から Q&A の作成、研修講座への還元
 中間報告書の作成

第3年次
 研究計画

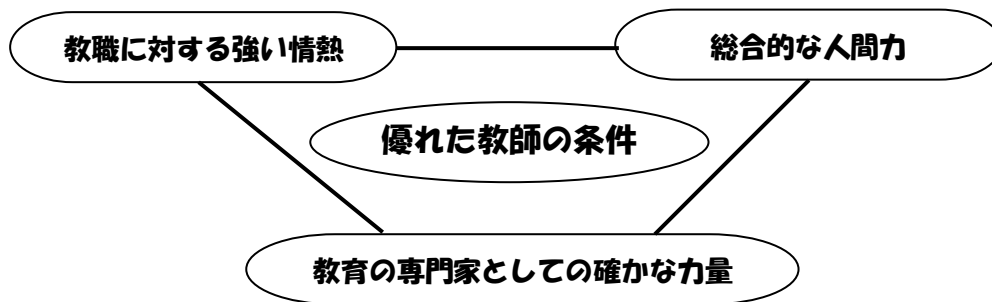
【第3年次】平成24年度(2012年度)
 校内研修の充実
 校内研修の課題の絞り込み
 課題の検証
 校内研修の進め方 研究視点 1
 ワークショップを取り入れた研修 など
 研修の評価 研究視点 2
 評価を位置付けた校内研修
 評価の場面
 発信 ハンドブックの作成 など
 研究の成果と課題の整理
 研究紀要(最終報告)の作成

(2) 今年度の研究スケジュール

月(委員会)	研究推進スケジュール	備考・その他
5月第1回	研究主題の検討 研究推進計画(3カ年)の検討 第1年次の活動の検討 アンケート内容の検討	
6月第2回	研究主題の設定 研究推進計画(3カ年)の決定 第1年次の活動の決定 アンケート内容の検討	
7月第3回	アンケート内容の検討、決定 アンケートの発送準備	
8月第4回	アンケートの回収 アンケートの集約	
9月第5回	全道大会に向けて アンケートの分析・原稿確認	
10月第6回	アンケートの集約 役割分担・集計方法の確認	
11月第7回	アンケートの集約・分析 課題の絞り込み	
12月第8回	アンケートの分析 課題の絞り込み	
1月第9回	課題の絞り込み 今年度のまとめ 成果と課題について	

4. 研究構造図

これからの教員に求められる資質・能力



後志の学校現場の現状

- 大規模校が減少し、1～2クラスの小規模校の増加
- 40代以上の一般教員の減少に伴い、30代前半でミドルリーダーとしての力量を求められている。
- 同じ教科の先輩教員が自校にいなかったり、20代後半から30代前半で校内研修を担当している。

実践的な指導力の向上

[学校が感じている課題]

- ・ 校内研修が日常実践につながらない
- ・ 具体的で効果のある校内研修の改善策が全体のものにならない。

[教員が感じている課題]

- ・ 校外研修に行く時間がなかなかとれない
- ・ 人数が少なく、多様な考えが出にくい
- ・ 研修の進め方について相談できない。

校内研修の充実

研究主題

「実践的な指導力の向上を図る教員研修の在り方」

視点1 授業研究を核とした校内研修のあり方

視点2 マネジメントサイクルを機能させた校内研修体制の確立

1年次目

- アンケート調査
- アンケート集計
- 現状・問題点の把握

2年次目

- 課題の絞り込み
- 発信
- ・ 困り感からQ&Aの作成・研修講座への還元

3年次目

- 発信
- ・ ハンドブックの作成など
- 評価

第2章 研究の内容

1 はじめに

校内研修支援についての調査研究ということで、小樽・後志の実態を知ることから1年次の研究をスタートしました。

具体的には、「校内研修の現状・問題点の把握」を目的とし、道研連の13次研究のアンケートをを参考にして、

- 校内研修の内容・時間・回数について
- 校内研修の計画・実践・評価・改善について
- 校内研修の推進組織について
- 校内研修や授業研究の活性化について
- 校内研修環境の整備について
- 校内研修成果の還元について
- 他機関との連携について

という7項目で小樽・後志の小中学校、全ての学校を対象にアンケート調査を実施しました。

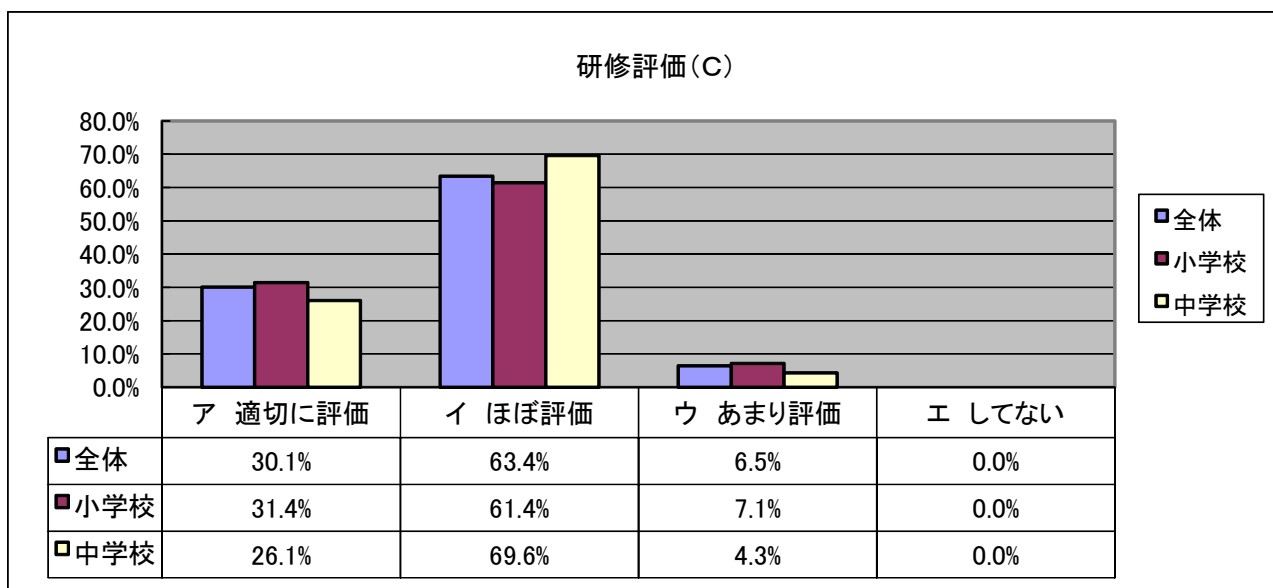
アンケート調査については、集計が終わり、分析を始めています。今年度は、アンケート結果の中から、我々が注目した部分を何点か選び、次年度これらの項目についての研究、検証を行っていきたいと考えています。

最後に資料として載せた「平成22年度 研究教科・研究主題一覧」も小樽・後志における校内研修の研究教科・研究主題の傾向が分かり大変興味深いものです。これについても研究、検証を深められたらと考えています。

2 研修の評価

(1) アンケート結果から

- 4 研修評価 「校内研修(研究)の計画や実践を評価(C)していますか。」



5 「校内研修（研究）の計画や実践をどのような方法で評価していますか。」

小学校

アンケート・協議... 8 ブロックや全体での話し合い... 6

アンケートと話し合いによる成果と改善の交流... 2

個人アンケート 検討 全教員での方向性 全体協議 学校評価

低・中・高に分かれたブロックによる協議 質問紙によるアンケート

アンケートの実施と集約、その後の総括 グループによる協議... 2

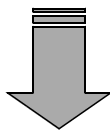
中学校

質問紙による個人アンケート

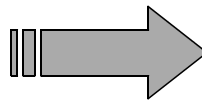
アンケートや協議

アンケートの結果をもとに討議

アンケート結果による反省、研究推進委員会による評価のまとめ



アンケートによる評価が多い



ワークショップ型の
グループ協議の実施

(2) 「ワークショップ型校内研修」をどう進めるか

学校が抱えるさまざまな課題を協同的に解決し、その過程において教師の高め合いや学び合いを促進する。

適切なファシリテーターの存在が成果を左右する。ワークショップファシリテーターの育成も研修目標とし、意図的に進めたい。それが言語活動の充実に向けた授業改善にもつながる。

(3) 「授業研究」の効果的な推進をどう図るか

授業研究では、授業づくりに関する教師間のアイディアの環流と共有化、すなわち、授業に関する「語りと探求」のコミュニティの成立と充実が目指されるべきである。

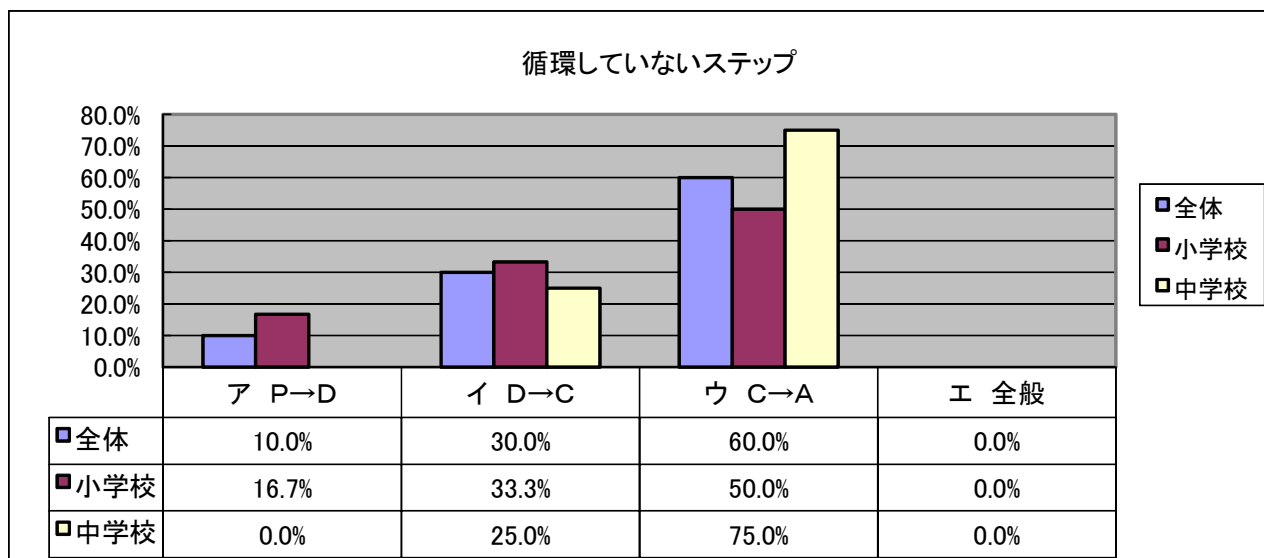
研究授業が、授業に関する「語りと探求」のコミュニティの成立と充実を資するためには、チャレンジングな研究授業」「参加型の事後協議会」「授業研究を連続・発展させる装置準備」という要件が満たされねばならない。

3 マネジメントサイクルを機能させた研修

(1) アンケート結果から

. 10 「マネジメントサイクルがうまく循環していないステップはどれですか。」

C A 全体 60% 小学校 50% 中学校 75%



. 11 「マネジメントサイクルがうまく機能していない原因は、何だと考えますか。記入して下さい。」

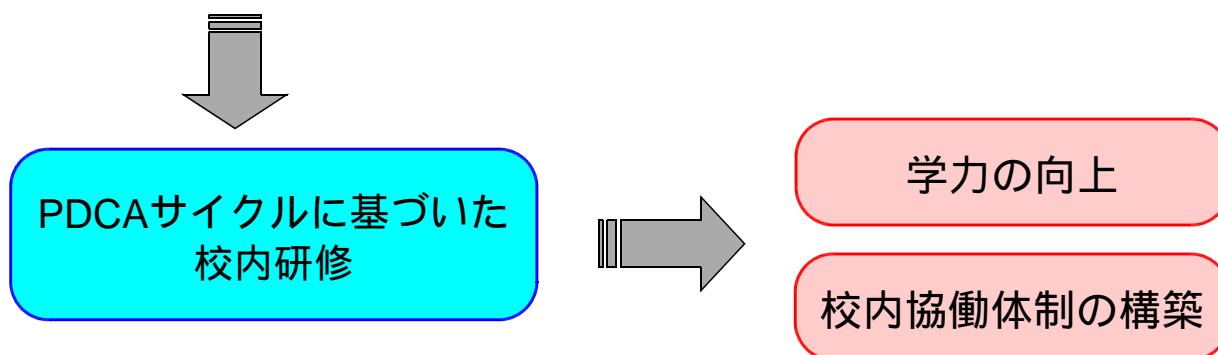
小学校

授業後の評価の機会が設けられず、話し合いできないこと

中学校

きっちり振り返り次へつなげるための話し合いを深める必要有り

討議があまり深まらず、計画や実践に反映することが難しい



(2) PDCA サイクルに基づいて校内研修をどう推進するか

校内研修がその成果をふまえてより自覚的・積極的に行われるためには、明確な根拠（証拠）に基づく継続的な改善が必要となり、評価に基づく経営という視点のもとでの設計が求められる。

校内研修は個々の教師の指導力・授業力の向上だけでなく、組織としての学校の力の向上という役割を期待されており、その基盤としての協働体制の構築が不可欠である。その観点からの校内研修体制の見直しを進める必要がある。

4 少人数への対応

(1) アンケート結果から

- 1 「校内研修（研究）の推進に当たり、人的な配置等で課題となっていることがあれば、記入して下さい。」

小学校

教職員の人数が少なくなり、協議内容に深さが足りなくなっている

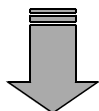
授業実践を参観し合える体制作り

少人数のため、ブロックなどの話し合いで種々の意見を参考にするのが不十分となりがちである。

中学校

教職員の減少に伴う組織的な取り組みの難しさ

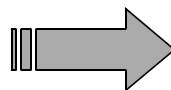
もう少し課題意識をもった年輩の先生がいたらいいと思う



- 2 「1の課題を解決するために、取り組んでいることや工夫されている点があれば、記入して下さい。」

小学校

全職員が関わろうとする参画意識を高めること
職員全員で取り組んでいる

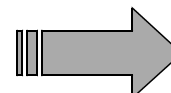


組織的な校内
研修体制

中学校

研究推進委員会の稼働

特別委員会として研究推進委員会を設置して、
各学年から代表を選出して研修前に打ち合わせる



実施形態・方法を
どう工夫するか

(2) 研修組織体制をどう構築し、運営するか

児童・生徒や学校の課題の解決に特化した実質的な課題の研究・研修を行うことが本来の姿である。

全員が参画する研究体制を構築し、運営にあたって、全員参加によって組織的に進める。

(3) 実施形態・方法をどう工夫するか

ここの教師の思いや願いを理解し、方向性を見出す共通理解の過程を大切にする。

全教職員が組織の目的や役割を十分理解し、取り組みへの意義や意欲を持ち、納得・了解して実行に移す意思形成が図られたうえで、動き出す組織でなくてはならない。

第3章 成果と課題

視点1 『授業研究を核とした校内研修の在り方』

視点2 『マネジメントサイクルを機能させた校内研修体制の確立』

1 今年度の研究の成果

校内研修をテーマとした新しい取り組みを始めることができた。

全学校を対象にアンケート調査を実施することができた。

アンケート調査をもとに集計し、小樽・後志の実態を把握することができた。

2 今年度の研究の課題

絞り込んだ課題についての研究は次年度以降となり、その発信をどうするかまで検討することができなかった。

研修講座の講師として「校内研修」に関わることで、発信もできるのではないか。

3 次年度の方向性

今年度の成果と課題をもとに、絞り込んだ課題について研究・検証を行い、発信をしていく。

平成22年度 研究教科・研究主題一覧（後志管内研修アンケート調査分）

中学校

教科	研究主題	副題
必修教科、道徳・特活	「主体的に学習を進める生徒」の育成 自ら判断し、計画し、実行する力を育てる指導（支援）はいかにあるべきか	～学びの充実感につながる「自己決定」場面をくふうした学習指導を求めて～
各教科	思考力・判断力・表現力等の育成 主体的に学習に取り組む、意欲的に学び続ける生徒の育成	～各教科での言語活動の工夫を通して～ ～基礎・基本の定着を図る教科指導を通して～
	基礎・基本の定着を図り、自ら学び、考える生徒の育成	
	基礎基本を確実に身につける生徒の育成	～学力の向上を目指し、生徒が「わかった・できた」と感じる授業の構築～
	基礎・基本を身につけ、豊かに表現できる生徒の育成	
	自ら学び、自ら考えることのできる生徒の育成	
全領域	生徒自らが自己表現をめざす教育活動のあり方 自らが考え、表現し、伝え合う子どもの育成	～言語活動の充実を通して～
教科	確かな学力の定着と自主的な学びを目指して	～基礎・基本の定着のための重点指導、反復学習と学習習慣の確立～
評価	基礎学力を身につけ、自ら学び自ら考える生徒の育成	～評価を取り入れた授業づくり～
道徳	自分を見つめなおし、自他のよさを伸ばす生徒の育成	
	互いに認めあい、高めあう生徒の育成	～コミュニケーション能力の育成をめざして～
各教科	「自分たちで考える」「自発的に活動する力」を育てる 自ら考え、発展的に活動できる生徒の育成	～問題解決的な学習における仲間との学び合いを通して～ ～言語活動の充実を図るための授業を目指して～
	確かな学力を定着させる学習活動の充実	～活用力の育成を目指して～
	互いに学びながら、粘り強く学習に取り組む生徒の育成を目指して	
特別学習、総合的な学習	確かな学力と豊かな心の育成を目指したキャリア教育の推進	～キャリア発達に関わる4能力を高める指導方法の工夫～
各教科、特活	主体的に学ぶ生徒の育成 目標に向かって、主体的に活動できる生徒の育成	～コミュニケーション能力（発表する力・理解する力）の向上を通して～
	主体的に学ぶ力を身につけた生徒の育成	～言語活動における指導方法の工夫・改善を通してのコミュニケーション能力を高める教育活動のあり方～
全教科	主体的に学び、豊かに伝えあう子どもの育成	
生活科、総合的な学習、外国語	たくましく、自ら学ぶ意欲をもつ子どもの育成	～関わり合い、学び合いの拡がりをめざして～
コミュニケーション能力の向上	生きる力を育み、社会力のある生徒の育成を目指す指導法の工夫	
各教科	一人ひとりがいきいきする学びの場の創造	
特別支援	子どもの「困り感」に寄り添った特別支援教育の推進	～発達障害の子どもに、どのような支援をするのか～
全教科	自ら学ぶ意欲を持ち、課題に取り組む生徒の育成	～生徒のやる気を引き出す指導の工夫～
	意欲的に学び、積極的に取り組む生徒の育成	～基礎・基本の定着を図り、学ぶ喜びを味わわせる指導の研究～

小学校（国語）

国語	豊かな関わりと心の広がりをつくり出す確かな国語力の育成	～「話す力」を高める表現力の形成に視点をあてて～
国語	自ら考え、意欲をもって取り組む子どもの育成	
国語	自ら生き方を創造する子どもの育成	
国語	生きてはたらくことばの力を高め、自ら学び続ける子の育成	～「話すこと」を中心とした言語活動の充実をめざして～
国語	一生懸命に、何事にも取り組む子どもの育成	～基礎・基本の定着を目指して～
国語	確かに読み取り、豊かに表現できる子どもの育成	～国語科における説明文・物語文の学習活動を通して～
国語	生き生きと学び合う子どもの育成	～伝え合う活動を通して（国語科を軸として）～
国語	じっくり聞き、自分の考えをもち、互いに伝えあう子どもの育成	～国語科物語文教材における読解指導を通して～
国語	子ども一人一人が主体的に学ぶ国語科の学習指導のあり方	～複式学級における学習ルールと基礎・基本の定着～
国語	自分の思いを豊かに表現し、学び合い、集団を高め合う子どもの育成	
国語	自ら課題をもち、生き生きと学び合う子どもの育成	～文章の内容を的確にとらえる力の育成を目指し、必要感をもって学習できる言語活動の工夫を通して～
国語	自分の思いを深め、伝え合える子どもの育成	
国語	自ら学び、豊かに伝えあう子どもの育成	～国語科の学習を通して～
国語	豊かな感性を育み言語能力を高める授業の創造	～文学教材との触れ合いを通して～
国語	豊かな表現で伝え合う子どもの育成	～コミュニケーション能力を高め、共に学び合う子どもを目指して～
国語	正しく豊かな言葉で表現する子を目指して	
国語	言語能力を高める授業のあり方	～言葉を活用する力を高める指導の工夫～
国語	自分の考えを持ち、確かに伝え合う子どもの育成	
国語	自ら考え判断し、いきいきと表現できる力の育成	
国語	子どもの読解力を高める指導の工夫	～国語科を中心として～
国語	心に輝きを持ち、学び合い、高め合う子どもの育成	
国語	学びのつながりを意識した教えて考えさせる授業	～確かな学力をつけるための学習指導のあり方について～
国語	自分の思いを大切にし、心豊かに表現できる子の育成を目指して	
国語他	自らが生き生きと学ぶ子どもの育成	～学び喜びのある授業の創造～

小学校（算数）

算数	いきいきとすんで学ぶ子の育成	～算数科における授業の工夫・改善を通して～
算数	一人一人が喜びをもって学習に取り組む子どもの育成	～算数科を通して～
算数	伝え合い、共に高め合う子どもの育成	
算数	生き生きと課題に取り組む、共に学び、高めあう授業づくり	体験と言語活動を重視して
算数	主体的に考え共に高め合い、より豊かな自分を創る子	～算数科の時間における指導法の工夫改善を通して～
算数	よく考え、共に学び、高め合う子どもの育成	
算数	自ら目標を立て、学習に取り組む子どもの育成	
算数	自分の考えをもち、生き生きと表現する子どもの育成	
算数	自ら学び、表現力豊かな子の育成	～算数科の学習を軸として～
算数	自分の考えを持ち、生き生きと表現する子どもの育成	～基礎・基本を大切にしたい算数科の学習を通して～
算数	自分の考えをもち、自分で解決できる子の育成	～算数科の学習を通して～
算数	「確かな学力」を育成する学習指導の研究	～算数的活動を取り入れた授業実践を通して～
算数	すべての子どもが生き生きと活動し、響き合う学習活動の追求	～算数科・自ら考え、互いに高め合う授業の創造～
算数	心豊かに生き生きと活動する中央小の子ども	～自ら考え、伝え合う子どもの育成～
算数	楽しみながら学ぶ中で基礎基本をしっかりと身につける子どもの育成	
算数	わかる！できる！基礎・基本の確かな定着を目指して	～共に学び合う子の育成～
算数	確かな学力をつけ、互いに高め合う授業の改善	
算数	意欲的に学び、確かな力を身につける子の育成	
算数	一人一人が意欲をもって学び、楽しさを味わうことのできる学習を目指して	～算数科を通して～
算数	たくましく心豊かに学び合う子	
算数	つながり わかり合える 算数科の授業づくり	
算数	互いに認め合い、豊かに表現できる北陽の子	～算数的活動の充実を通して～
算数	自ら進んで学ぶ子の育成	～自ら考え、活用する力を培う学習のあり方～
算数	自ら課題に取り組む、主体的に学び合う子どもの育成	～考える楽しさを味わう算数科の学習を通して～
算数	豊かに表現できる子どもの育成	
算数	自ら学習に取り組む、共に学び合う子の育成	～算数科を中心に基礎・基本の定着を図る指導のありかた～

小学校（他）

全教科	意欲的に学習する子どもの育成	～話す・聞く活動を通して～
全領域	自分の考えをもつことも、生き生きと表現できることも意欲をもって学ぶことも	
算数科を中心に教科全般	進んで学び豊かに表現する子どもの育成	
国語、算数	基礎・基本の定着をはかる学習指導のあり方	～基礎・基本を豊かに学ぶ～
国語、理科、算数	自ら考え、共に学び合う子どもの育成	～生徒指導の機能を生かした授業の創造～
国、社、生、外国語、総合	自らから課題を見つけ、伝え合い、互いを尊重し合う子どもの育成	
国語、算数、総合	自ら考え、主体的に取り組む子どもの育成	
国語、算数	一人ひとりが成就感を味わえる学習環境をデザインする	～子ども自身が「できる」を実感できる学習を目指して～
外国語活動	進んで伝え合い認め合う子どもの育成	～外国語活動における「コミュニケーション能力」育成を柱として
外国語	自分の考えを持ち、互いに伝え合う子どもの育成	～コミュニケーション能力の育成をめざして～
算、道、特支	心豊かにこのびのびと活動する俱小の子ども	～自分の思いを活かして、他の子とつなげる、学習の創造を目指して～
算数科、その他	一人一人がいきいきと参加し、お互いの成長を意識できる授業の創造 一人ひとりが輝く ～そんな君が大好きだ！～ 人との関わりを大切に生き生きと学び合う子	～一人一人のコミュニケーション力を高める指導法を求めて～
全教科（国語を中心として）	自ら進んで生き生きと表現できる子どもの育成	
体育	運動の楽しさを味わい、すすんで体づくりに励む子どもの育成	～基礎体力の向上を目指す指導法の工夫～
算数、音楽	生き生きと学び合う東小の子ども	～算数科、音楽科における授業の改善・工夫を通して～
外国語、国語	意欲的に学び合い豊かに表現できる子の育成	